

ご あ い さ つ

学校教育法の一部改正により今年度から特別支援教育制度が始まりました。いわば特別支援教育元年です。この制度の施行により、従来の特別支援学校・特別支援学級の対象児童生徒のみならず、一般校に在籍する軽度発達障害の児童生徒にも手厚い教育が施されることになりました。児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づく教育が、関係諸機関との連携を図りながら進められることになったことは喜ばしいかぎりです。一人一人の障害に応じて成長・発達が促進され、周囲で理解と支援があたりまえに行われ、障害のある人もない人も共に支えあって生きる共生社会の実現の一步になってほしいものです。

この新しい制度のもとでは特別支援学校が地域の支援センター的役割を果たすように求められています。本校も可能な限り、公立の特別支援学校と同様にあるいは独自に地域の幼・小・中・高校や本学附属四校園に対しても地域センターとしての務めを果たしてきており、引き続き将来にわたっても連携・協力し様々な手立てを用いて特別支援教育の意義を発信していきたいと考えています。

さて、本校が取り組んできた研究は「一人一人の豊かな生活をめざす実践～子どもから出発して～」をテーマに掲げて五年目のまとめの年を迎えました。

「豊かな生活」には様々なイメージが考えられますが、本校では、子どもたち自身が学習を通して生活を広げ、深めていくものと、周囲が支援していくものとの相互がかかわりながら豊かな生活が築かれていくと考えます。すなわち、子どもたち自身が周囲の人・物・地域社会や自然とかかわりながら、自分らしさを発揮し主体的に生きるために必要な知識・技能を修得し、関心・意欲・態度を育てていく、一方、子どもたちをとりまく周囲も子どもたちを支援したり環境条件を整えたりすることによって子どもたちの生活が豊かになっていくと思われまます。こうした視点に立って、これまで幅広く多様な研究分野から研究実践を行ってきました。からだづくり・自立活動・授業づくり・里山・サポートブック・情報・進路・教育相談の研究です。

四季おりおりの自然と触れあい、元気さとたくましさを得ていく子どもたち、友だちとけんかしたり仲直りしたりしながら人間関係を育てていく子ら、乗ることができなかった自転車に乗れるようになり、来る日も来る日も自転車を乗り回している子、支援員と楽しそうに帰宅していく子らの姿を見ながら、子どもたちの心身と生活が確かに豊かなものになっていると実感しています。子どもたちの生活の豊かさを願ってこれからも支援していきたいと思っています。

ここに、五年間の長きにわたり共同研究者として指導・助言をいただいた大学の先生方はじめ協力いただきました関係諸機関、保護者の方々に深く感謝申し上げます。研究協議会参会者並びに本紀要をご高覧の皆様から本研究実践の成果や課題について忌憚のないご意見をいただければ幸いです。